

2013年度中間決算説明会

フロンティア 70

2013年11月20日

株式会社 **千葉銀行**

(東証第1部：8331)

≫ 業績の概要

業績概要	3
資金利益	4
貸出金の状況	5
有価証券の状況	6
役務取引等利益	7
経費	8
与信関係費用	9
2014年3月期 業績計画	10
自己資本	11

≫≫ 営業戦略

更なる成長が見込めるマーケット	13
店舗戦略	14
富裕層取引	15
成長分野に対する取組①	16
成長分野に対する取組②	17
成長分野に対する取組③	18
個人向けチャネル戦略	19
住宅ローン	20
無担保ローン・カード事業	21
投資型金融商品	22
資本政策	23

≫ 業績の概要

≫ ≫ 営業戦略

連結	(億円)	12/9期	13/9期	増減額	年度計画	進捗率
連結経常利益		367	435	68	755	57.6%
連結中間純利益		220	266	45	450	59.1%
連単差(中間純利益)		12	12	0		

単体	(億円)	12/9期	13/9期	増減額	
業務粗利益		772	765	△ 6	
資金利益		662	649	△ 13	p.4
役務取引等利益		72	89	17	p.7
特定取引利益		5	6	1	
その他業務利益		31	20	△ 11	
うち債券関係損益		23	12	△ 11	
経費(△)		412	412	△ 0	p.8
実質業務純益		359	353	△ 5	年度計画 進捗率
コア業務純益		336	341	5	645 52.9%
一般貸倒引当金繰入額(△)		-	-	-	p.9
業務純益		359	353	△ 5	
臨時損益		△ 23	47	70	
うち不良債権処理額(△)		7	△ 4	△ 12	p.9
うち株式等関係損益		△ 37	5	43	
経常利益		336	400	64	695 57.6%
特別損益		△ 3	△ 4	△ 1	
中間純利益		207	253	45	420 60.3%
与信関係費用(△)		7	△ 4	△ 12	p.9

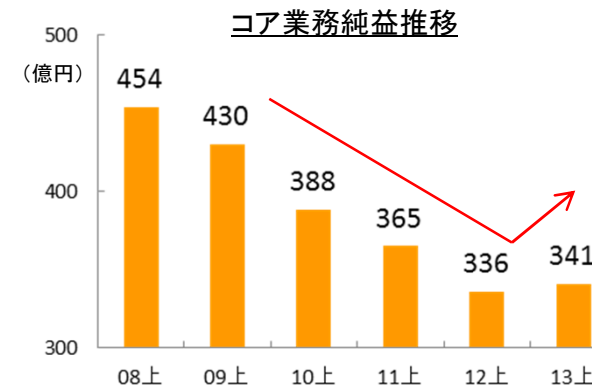
年度計画に対し順調に推移

【連結】

- 連結経常利益は
前年同期比+68億円の435億円
- 連結中間純利益は
前年同期比+45億円の266億円

【単体】

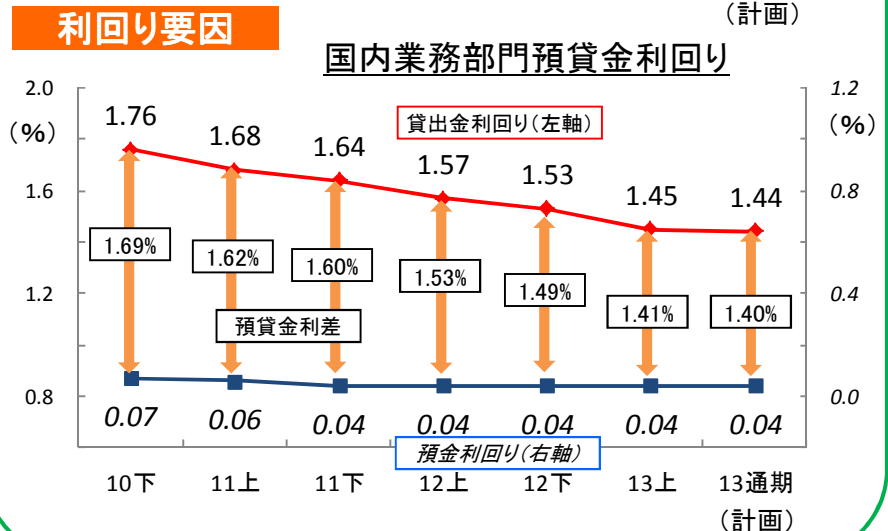
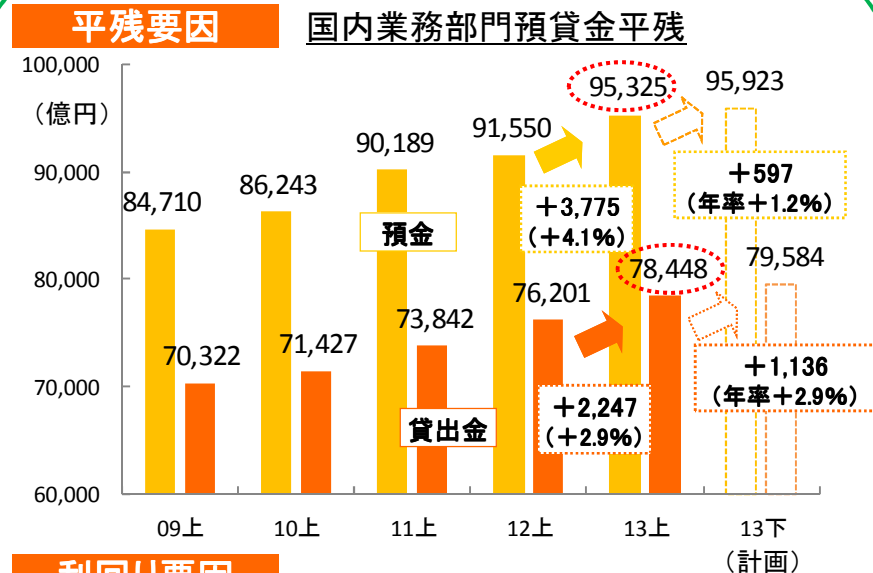
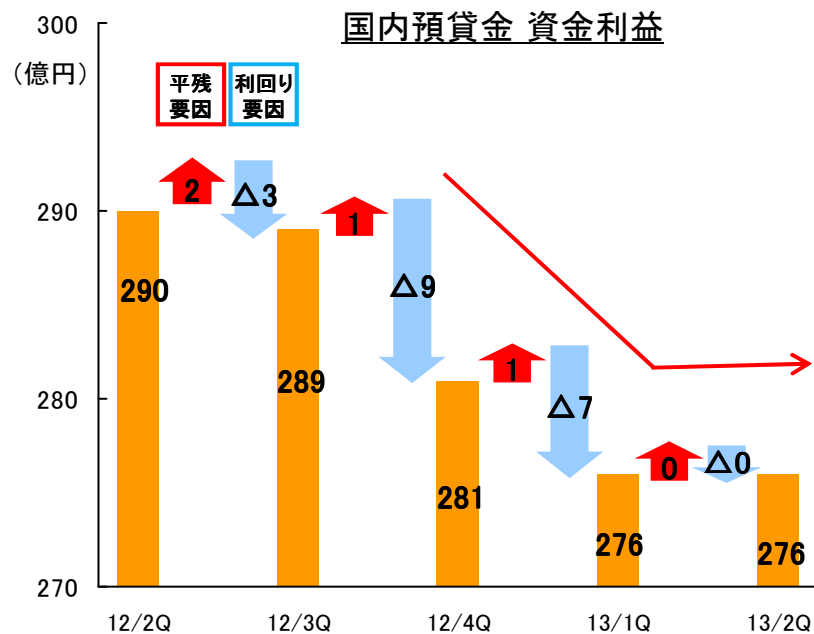
- コア業務純益は
前年同期比+5億円の341億円
5年ぶりに前年同期比増加に転じる



- 単体経常利益は
前年同期比+64億円の400億円
- 単体中間純利益
前年同期比+45億円の253億円

預貸金は順調に増加、資金利益の減少底打ちを確認

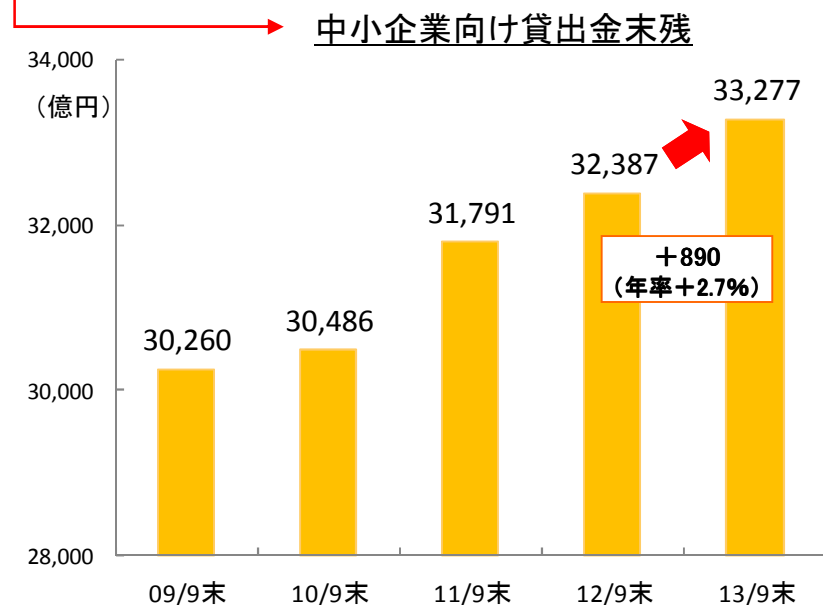
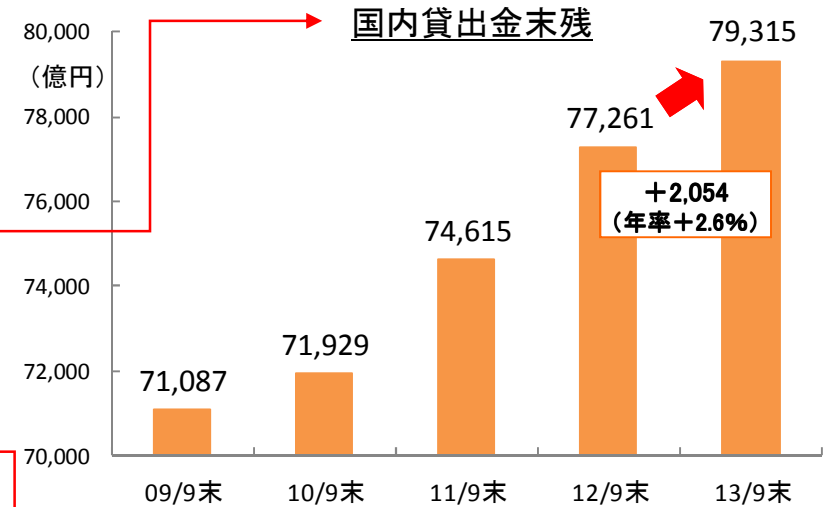
(億円)	12/9期	13/9期	増減額
資金利益	662	649	△ 13
国内業務部門	645	628	△ 16
うち預貸金	580	552	△ 27
貸出金利息	601	574	△ 27
預金利息	21	21	△ 0
うち有証利息配当金	76	81	4
国際業務部門	17	20	3



国内貸出金は順調に増加、中小企業向け貸出、住宅ローンの伸びが大きく寄与

(億円)	12/9末	13/9末	12/9末比	増減率
貸出金	78,067	80,393	2,326	2.9%
国内貸出金	77,261	79,315	2,054	2.6%
除く公共	73,693	75,977	2,284	3.0%
事業者向け	45,696	46,925	1,229	2.6%
大・中堅企業	13,308	13,647	339	2.5%
中小企業	32,387	33,277	890	2.7%
消費者ローン	27,997	29,052	1,054	3.7%
うち住宅ローン	27,091	28,123	1,032	3.8%
公共	3,567	3,337	△ 229	△ 6.4%
国内貸出金	77,261	79,315	2,054	2.6%
千葉県内店	57,812	58,476	663	1.1%
県外店	19,448	20,839	1,390	7.1%
大企業向け店舗 (県外特別店*)	12,511	13,463	951	7.6%
個人・中小企業向け店舗 (県外特別店*以外)	6,936	7,376	439	6.3%

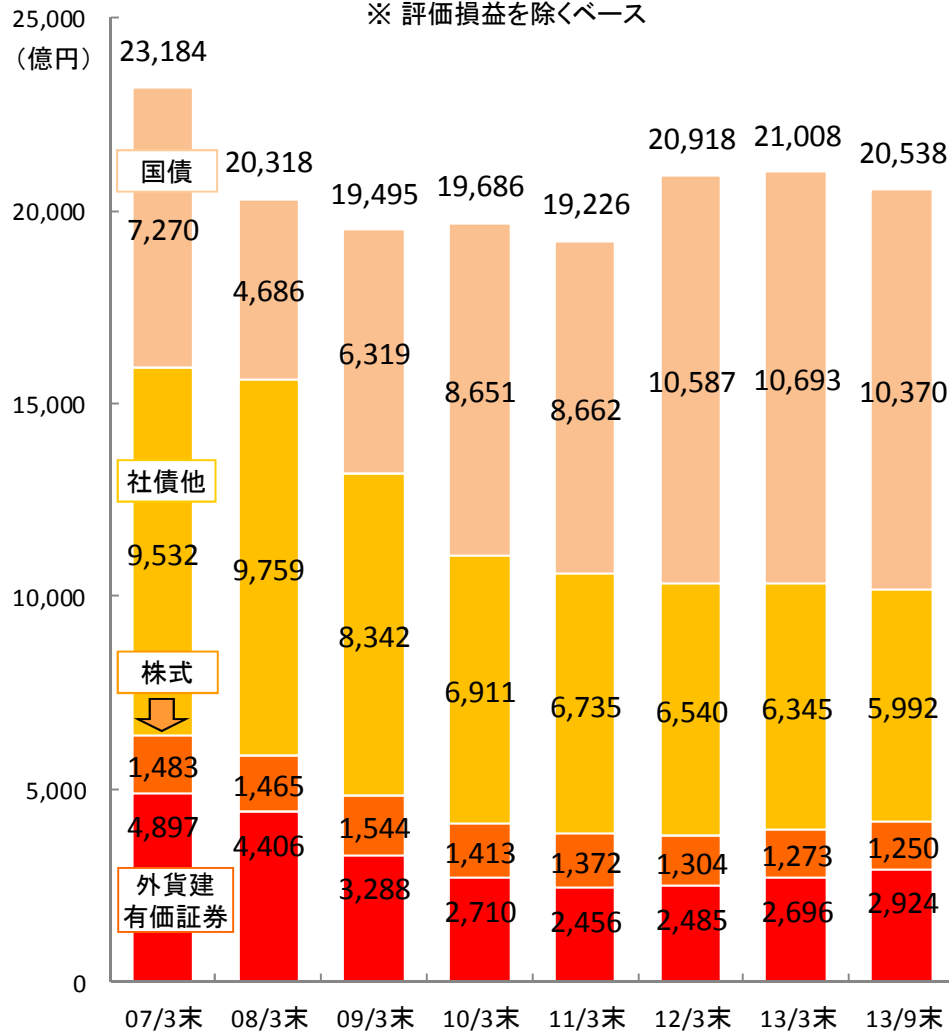
(※)東京営業部、新宿支店、大阪支店



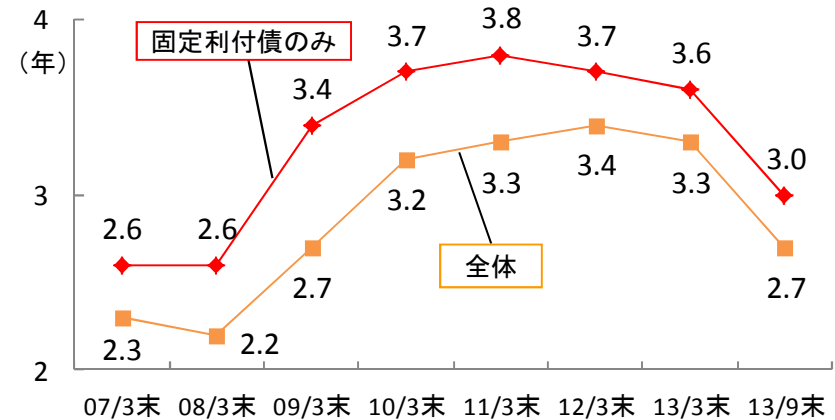
金利リスクを抑えた運用方針でリスクコントロールを徹底

有価証券末残※

※ 評価損益を除くベース

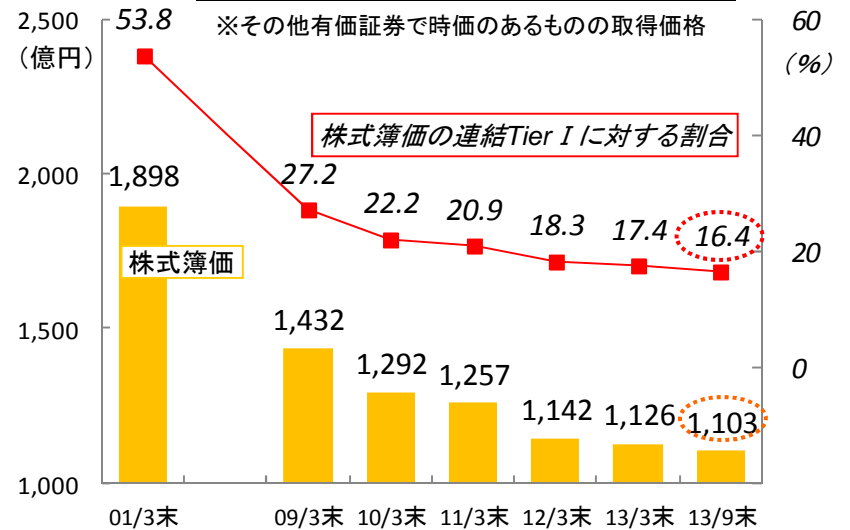


円貨債券平均残存期間



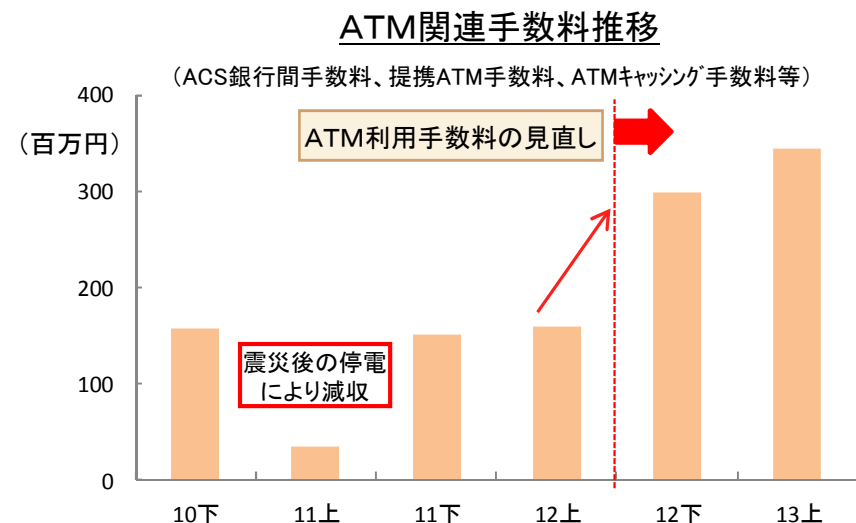
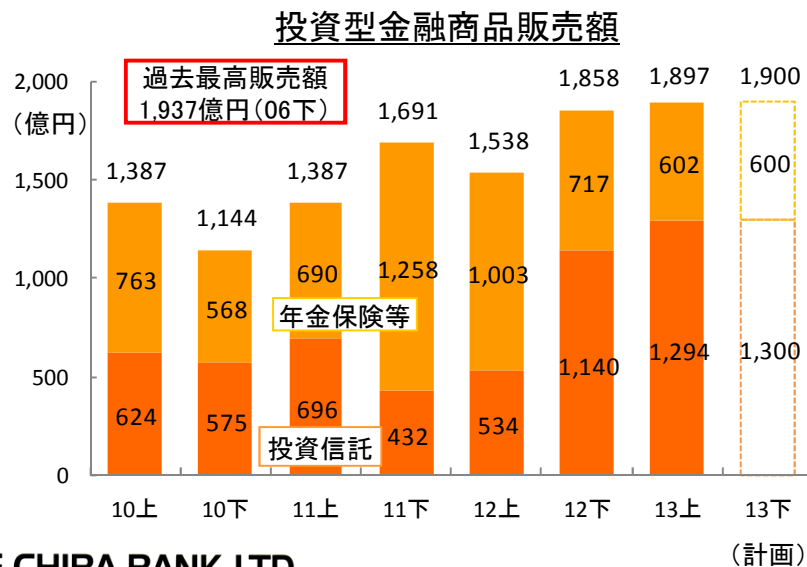
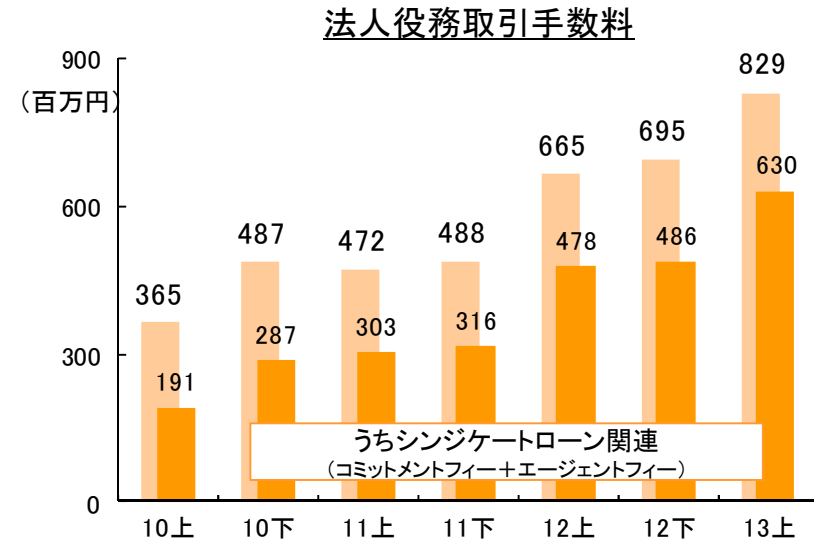
株式簿価※とTier I に対する割合(連結)

※ その他有価証券で時価のあるものの取得価格



株式投資信託の販売が好調、役務取引等利益は堅調に増加

(億円)	12/9期	13/9期	増減額
役務取引等利益	72	89	17
役務取引等収益	163	180	17
うち預かり資産関連手数料	43	52	9
うち投信手数料	19	35	16
うち保険手数料	23	16	△7
うち保障性保険手数料	3	5	1
うち法人役務取引手数料	6	8	1
役務取引等費用	90	91	0
うち支払保証料・団信保険料	55	56	1



成長に必要な投資を積極的に実施する一方、経費削減及び業務効率化を図る

(億円)	12/9期	13/9期	増減額	14/3期 (計画)	増減額
	経費	412	412	△0	825
人件費	205	206	0	412	0
物件費	186	186	△0	369	2
税金	21	19	△1	44	2

成長への投資

➤ 店舗等本移転・新設

- ・ちばぎんひまわりラウンジ津田沼(13/12)
- ・つくば支店(14/1)
- ・室町ちばぎん三井ビルディング(14/2)
(東京営業部、市場営業部、
市場業務部、東京事務所)

経費の主な増減要因

(億円)	13/9期(実績)	14/3期(計画)
人件費	+0 <ul style="list-style-type: none"> 社会保険料(+1) 退職給付費用(△1) 	+0 <ul style="list-style-type: none"> 社会保険料(+3) 人員減による減少(△1) 退職給付費用(△1)
物件費	△0 <ul style="list-style-type: none"> 新規事業投資(+2) 店舗リニューアル関連(+1) 預金保険料(+1) 営業店システム償却(△4) 	+2 <ul style="list-style-type: none"> 新規事業投資(+5) 店舗リニューアル関連(+6) 預金保険料(+1) 営業店システム償却(△9)
税金	△1 <ul style="list-style-type: none"> 消費税(△1) 	+2 <ul style="list-style-type: none"> 消費税(+2)

経費の適正化、削減

➤ コストの適正化

- ・コスト管理委員会(13/9設置)

コスト(ヒト・モノ・カネ)に関する現状分析、目標設定、効果検証

↓
コストの効率化、適正化を図る

➤ 業務効率化

- ・融資業務効率化PT(13/9設置)
- ・ローン業務効率化PT(13/10設置)

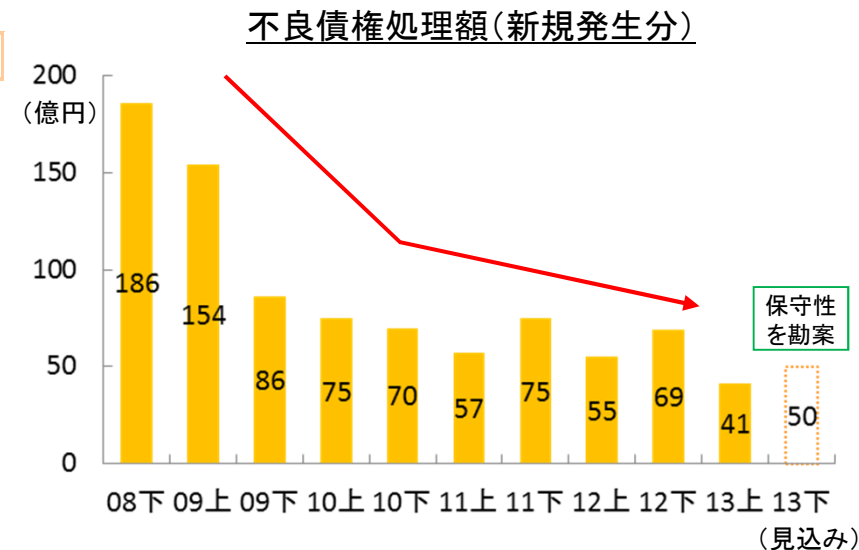
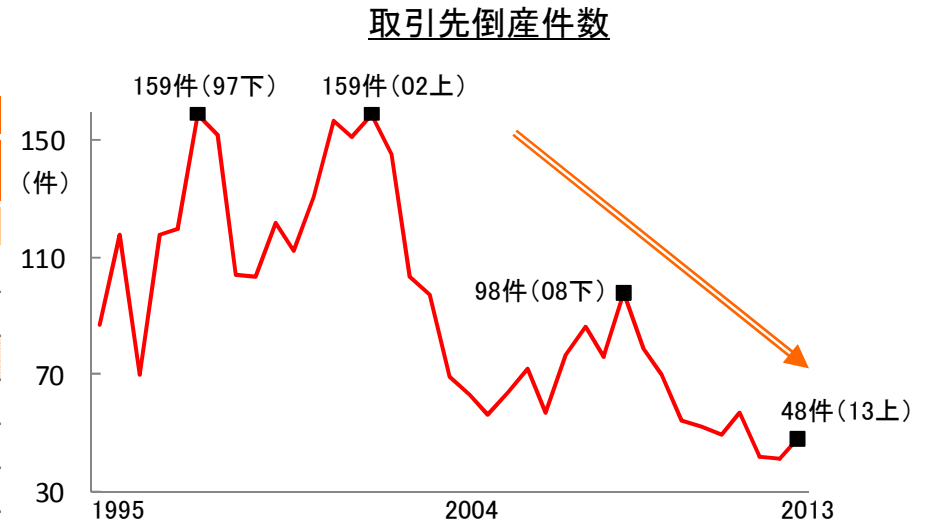
業務全般の無駄、非効率の見直し

↓
業務生産性の向上を図る
⇒人員の適正配分、配置

取引先倒産件数、不良債権の新規発生額は低位で推移

(億円)	13/3期		14/3期	
	上期 (実績)	下期 (実績)	上期 (実績)	下期 (計画)
与信関係費用	7	82	△ 4	34
一般貸倒引当金純繰入額	△ 25	△ 2	△ 24	2
不良債権処理額	7	109	△ 4	56
貸出金償却等	51	101	31	41
うち新規発生	55	69	41	50
うち担保下落等	8	7	4	10
うち回収等	△ 15	△ 13	△ 17	△ 12
償却債権取立益	△ 18	△ 17	△ 10	△ 10
与信費用比率	2bp	20bp	△ 1bp	8bp

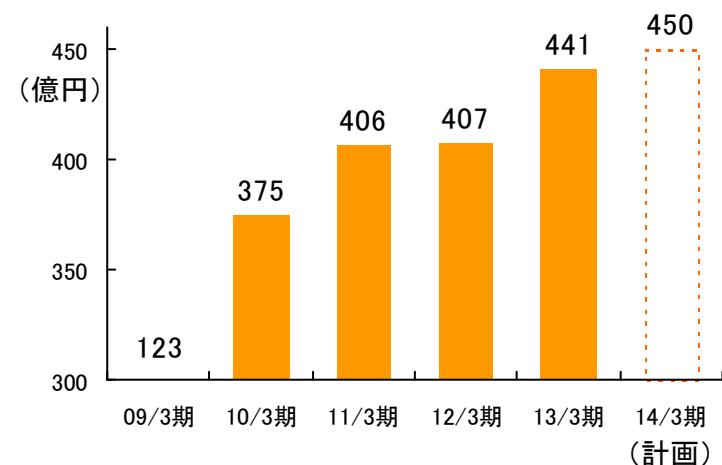
(注)
 上表では過去との比較上、貸倒引当金戻入益をそれぞれ一般貸倒引当金純繰入額及び個別貸倒引当金純繰入額に分けて表示。



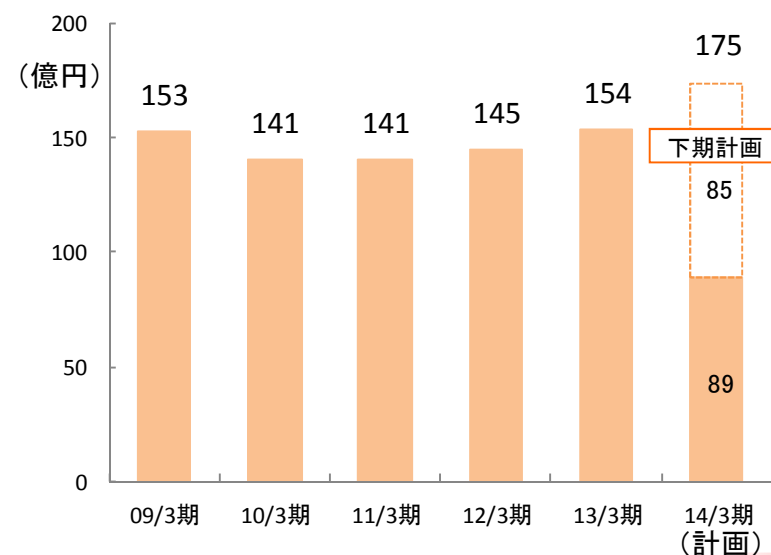
連結	(億円)	13/3期	14/3期	前期比	うち下期
			(計画)		(計画)
連結経常利益		727	755	27	319
連結当期純利益		441	450	8	183
単体					
	(億円)	13/3期	14/3期	前期比	うち下期
			(計画)		(計画)
業務粗利益		1,524	1,500	△ 24	734
資金利益		1,301	1,260	△ 41	610
役務取引等利益		154	175	20	85
特定取引利益		13	15	1	8
その他業務利益		54	50	△ 4	29
うち債券関係損益		38	30	△ 8	17
経費(△)		818	825	6	412
実質業務純益		706	675	△ 31	321
コア業務純益		667	645	△ 22	303
一般貸倒引当金繰入額(△)		△ 27	△ 22	5	△ 22
業務純益		733	697	△ 36	343
臨時損益		△ 69	△ 2	67	△ 49
うち不良債権処理額(△)		117	52	△ 65	56
うち株式等関係損益		9	8	△ 1	2
経常利益		664	695	30	294
特別損益		△ 5	△ 10	△ 4	△ 5
当期純利益		412	420	7	166
与信関係費用(△)		89	30	△ 59	34

連結当期純利益は450億円を計画

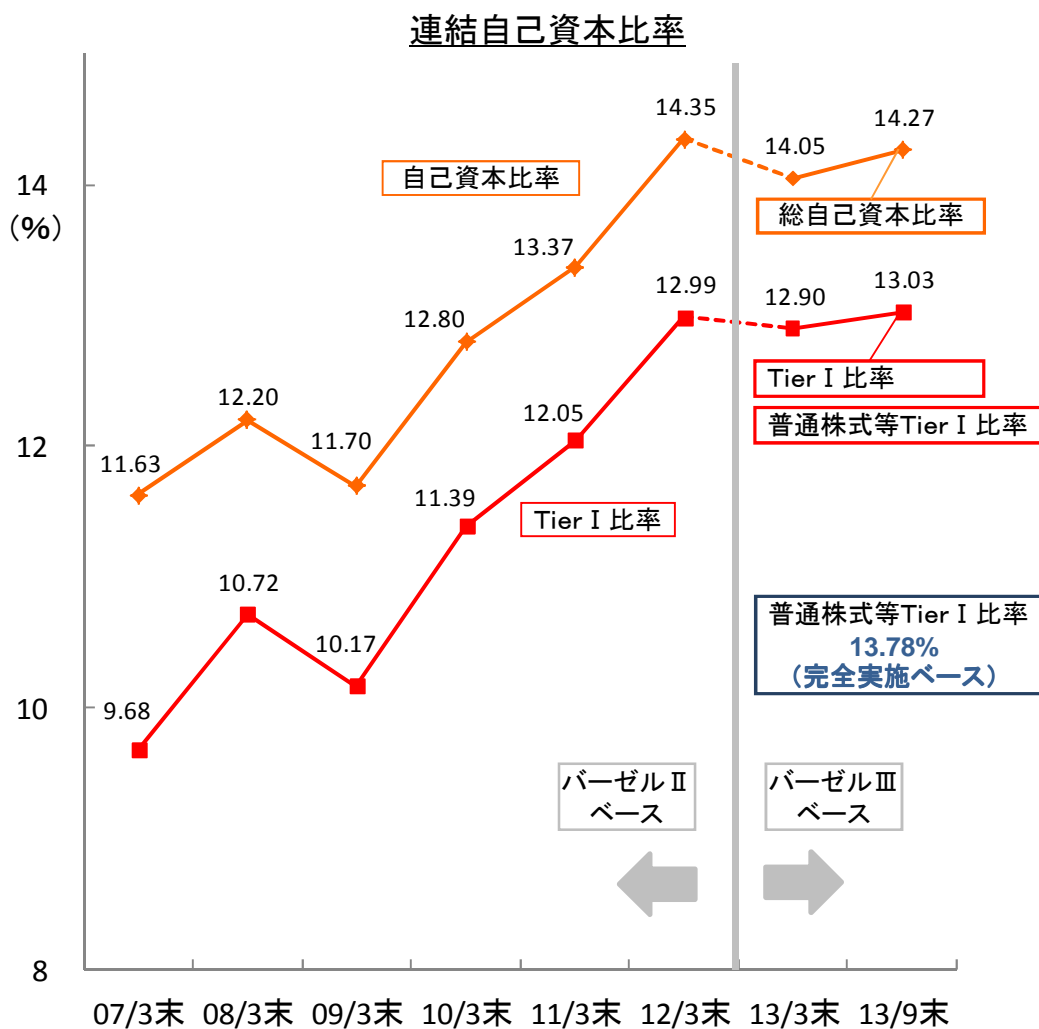
— 5期連続の増益へ



役務取引等利益は175億円を計画



自己資本は質・量ともに引き続き健全な水準、流動性比率等規制にも着実に対応



自己資本・リスクアセット等(連結)

	13/3末	13/9末	増減
総自己資本	7,024	7,337	312
うちTier I	6,452	6,700	247
うち普通株式等Tier I	6,452	6,700	247
リスクアセット等	49,998	51,421	1,422
信用リスク	46,164	45,771	△ 392
マーケットリスク	666	636	△ 29
オペレーショナルリスク	3,012	2,997	△ 14

【参考】 QIS報告(13/3末)

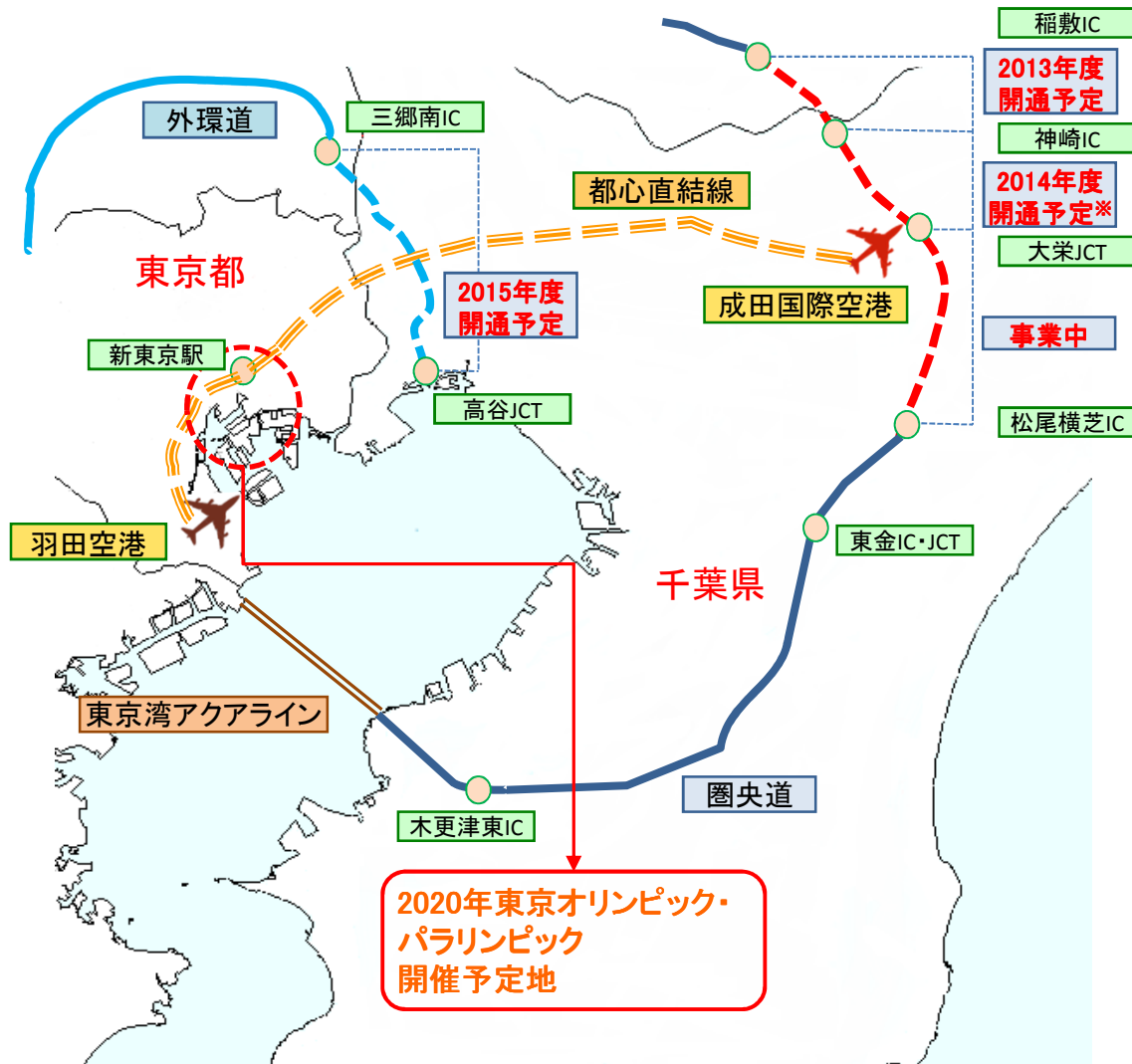
バーゼルⅢ指標	13/3末	規制水準	適用時期
レバレッジ比率	5.65%	3%	試行期間
流動性カバレッジ 比率(LCR)	114%	100%以上	15年3月期～段階適用
安定調達比率 (NSFR)	106%	100%超	18年3月期～

≫ 業績の概要

≫ ≫ 営業戦略

東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて千葉、東京双方でインフラ整備が加速

「県内で進むインフラ整備」



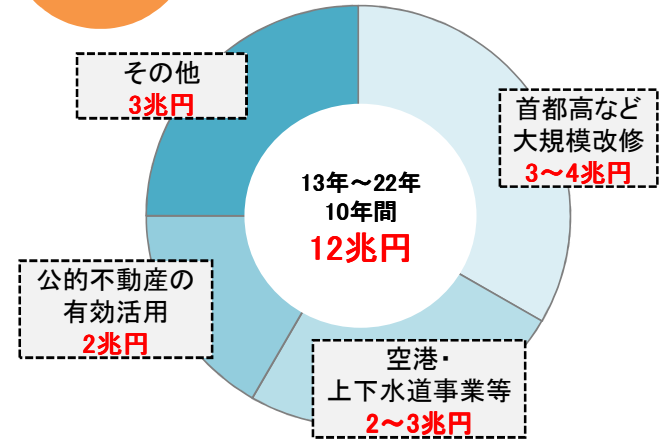
インフラ整備加速に伴う高成長

交通インフラ

- ✓ 成田空港関連設備
- ✓ 圏央道 (松尾横芝IC～稲敷IC)
- ✓ 外環道 (高谷JCT～三郷南IC)
- ✓ 都心直結線 (成田空港～羽田空港)

PPP/PFI活用

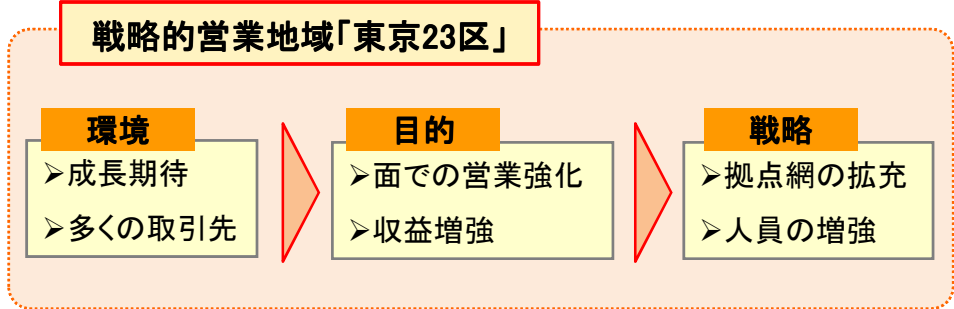
PPP/PFIの抜本改革アクションプラン*



*民間資金等活用事業推進会議にて決定(13年6月)

※開通時期については用地取得等が速やかに完了する場合

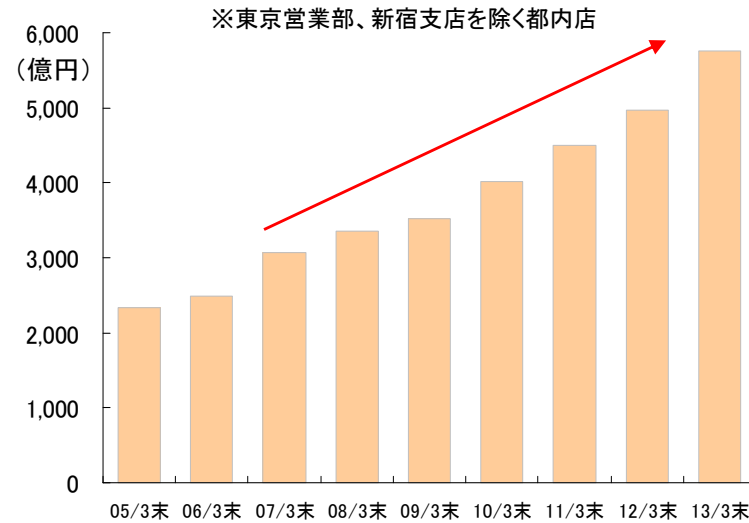
東京23区を「戦略的営業地域」と位置付け、従来以上に面での営業活動を展開



「東京23区内の法人融資取引先分布図」



「都内一般店舗※の貸出残高推移」



品川法人営業所(新設13/10)

- ✓ 営業エリア:
港区、品川区、大田区が主要ターゲット

新宿支店(営業人員増強13/10)

- ✓ 中小企業等推進に特化した営業担当を配置

- 営業推進対象先
中堅、中小企業、富裕層
- マーケット潜在力
多くの開発案件、厚い法人基盤、高い富裕層比率

貸出を中心に、相続関連業務、資産運用提案を通じ、富裕層取引の囲い込みを強化

法人営業部

ウェルス・マネジメント・グループ

プライベートバンキング

PBチーム

事業承継・相続

財務相談

推進支援グループ

シンジケートローン

M&A

債権流動化

確定拠出年金

ビジネスセンター・グループ

EB

信託業務

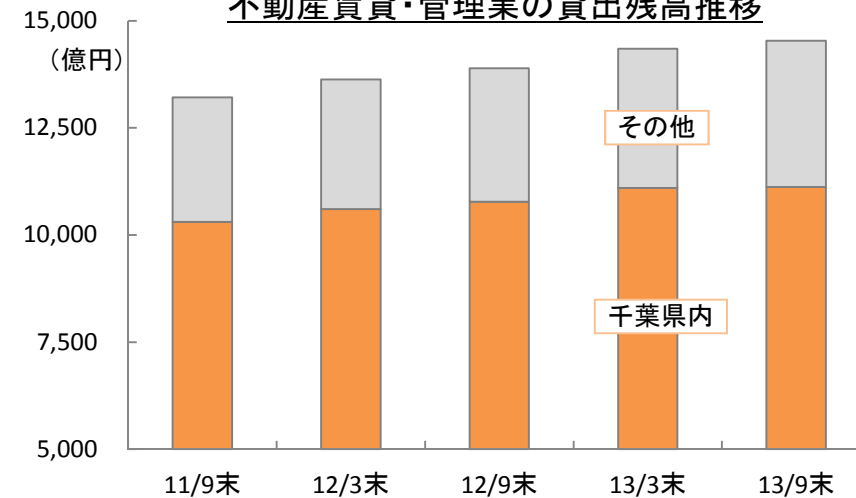
06/6 遺言信託・遺産整理業務に
銀行本体で取扱開始

地銀初

成長ビジネスサポート室 (⇒ P16~P18)

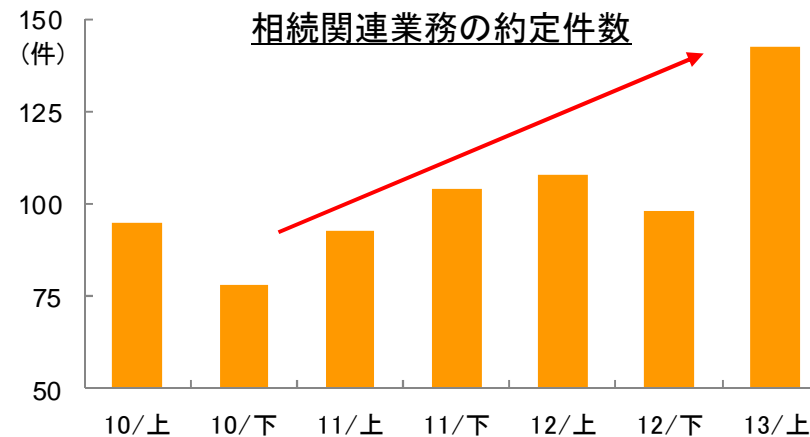
不動産賃貸業向け貸出

不動産賃貸・管理業の貸出残高推移



相続関連取引

相続関連業務の約定件数



成長分野に専担者を配置、貸出金残高や収益は順調に拡大

成長ビジネスサポート室

医療・介護

農業

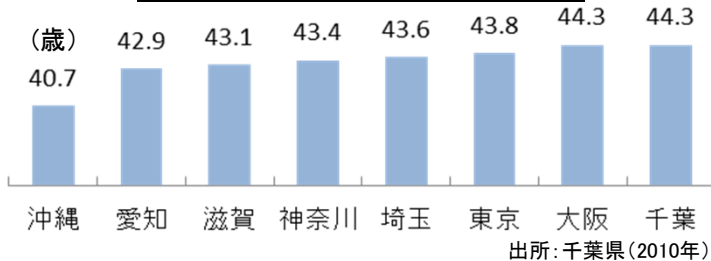
観光

環境

社会インフラ(PFI)

国際業務

都道府県別平均年齢(若い順)



・高齢化のペースが加速
・医療・介護サービス
質量両面における
充実が急務

・病院や介護施設の建設
資金ニーズへ対応
・専用融資商品
(ちばぎんメディカルローン等)
・情報提供

医療

▶千葉県の「病床整備計画」

12年3月

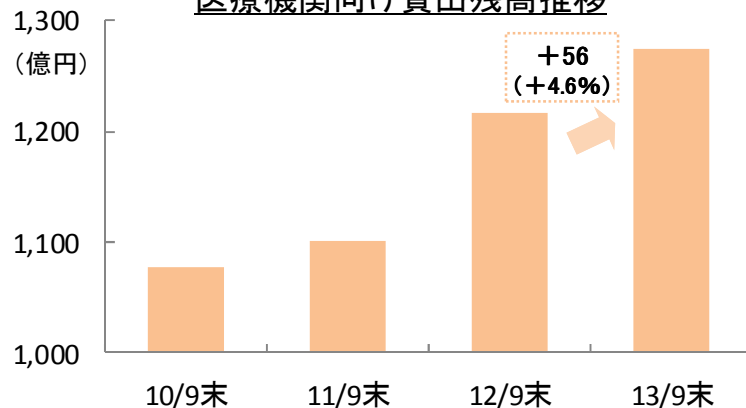
54機関/3,206床

+

13年3月

9機関/446床

医療機関向け貸出残高推移



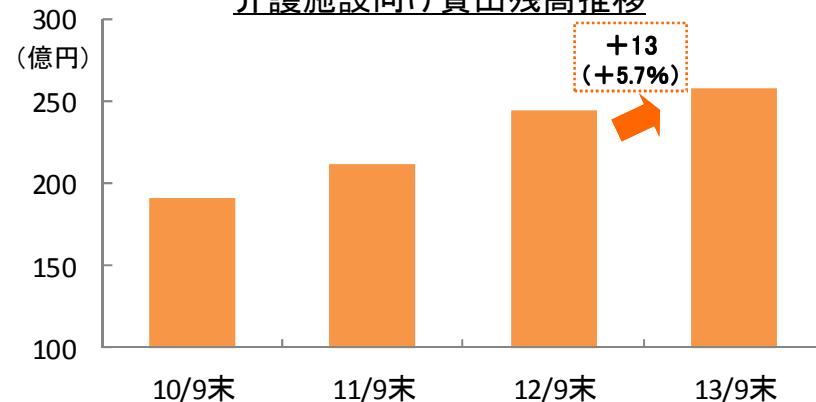
介護

▶千葉県の「高齢者居住安定確保計画」
サービス付高齢者向け住宅登録数

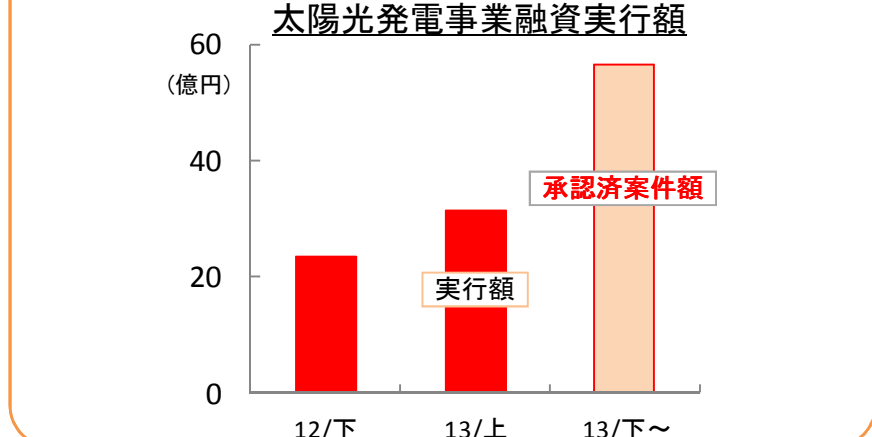
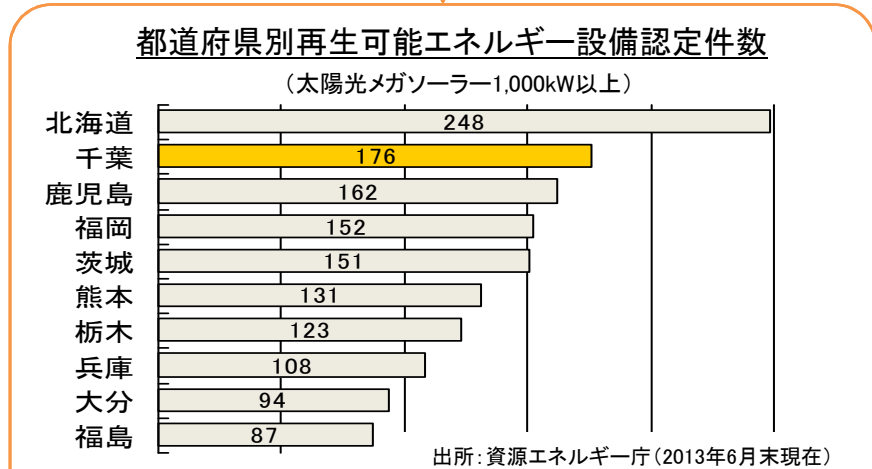
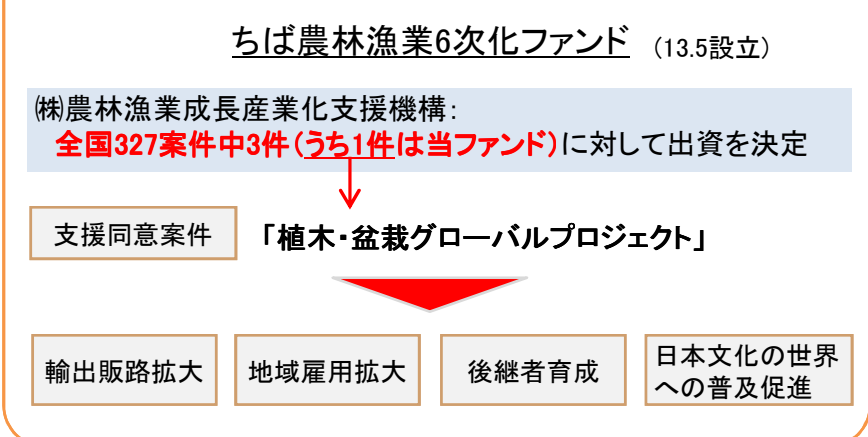
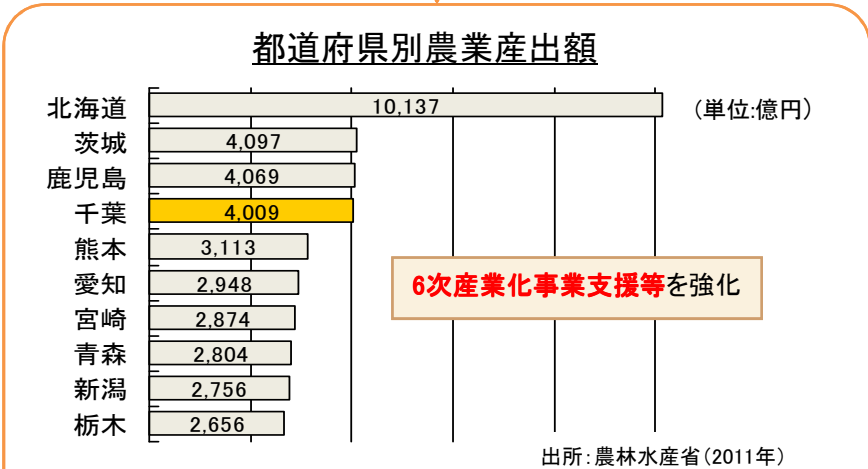
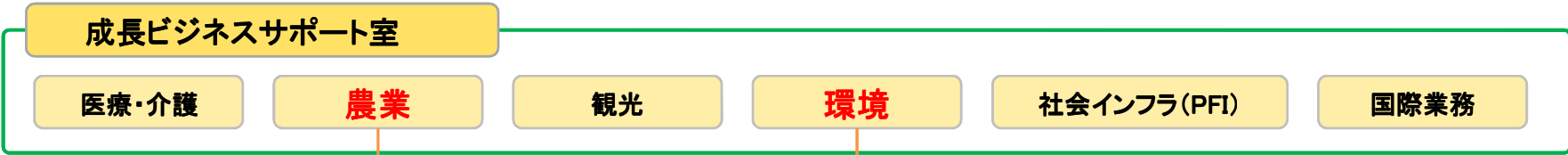
1,519戸(2011年)

⇒ 9,000戸(2015年)

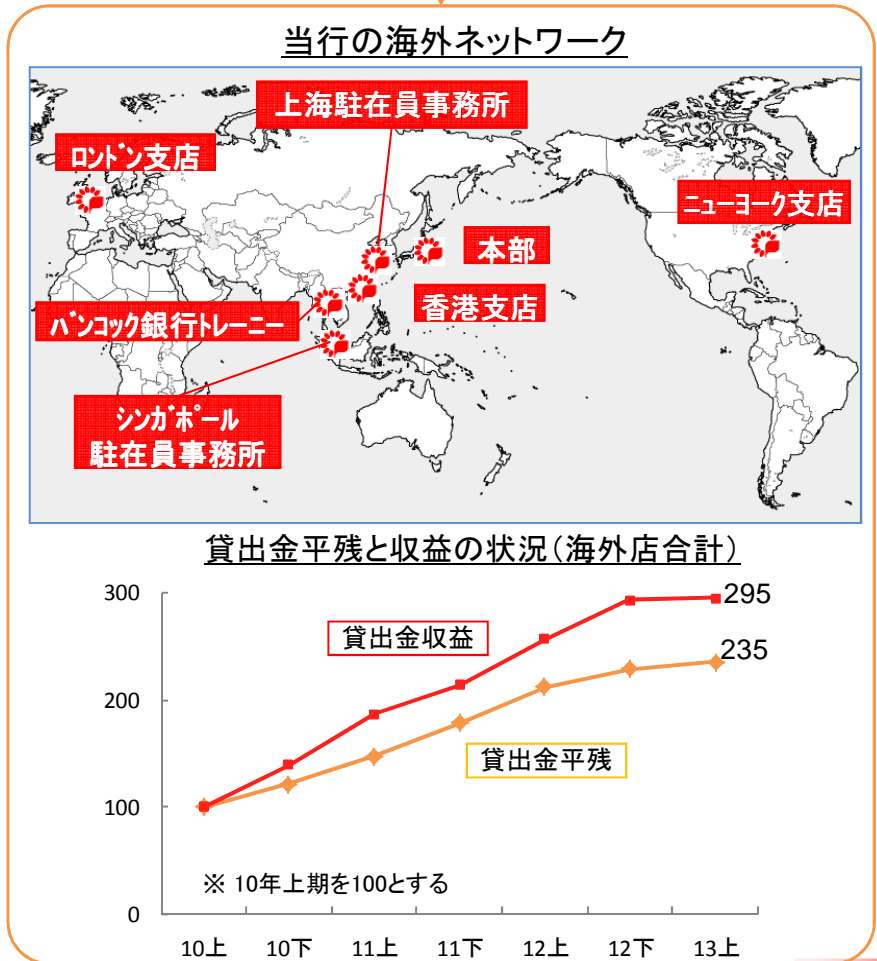
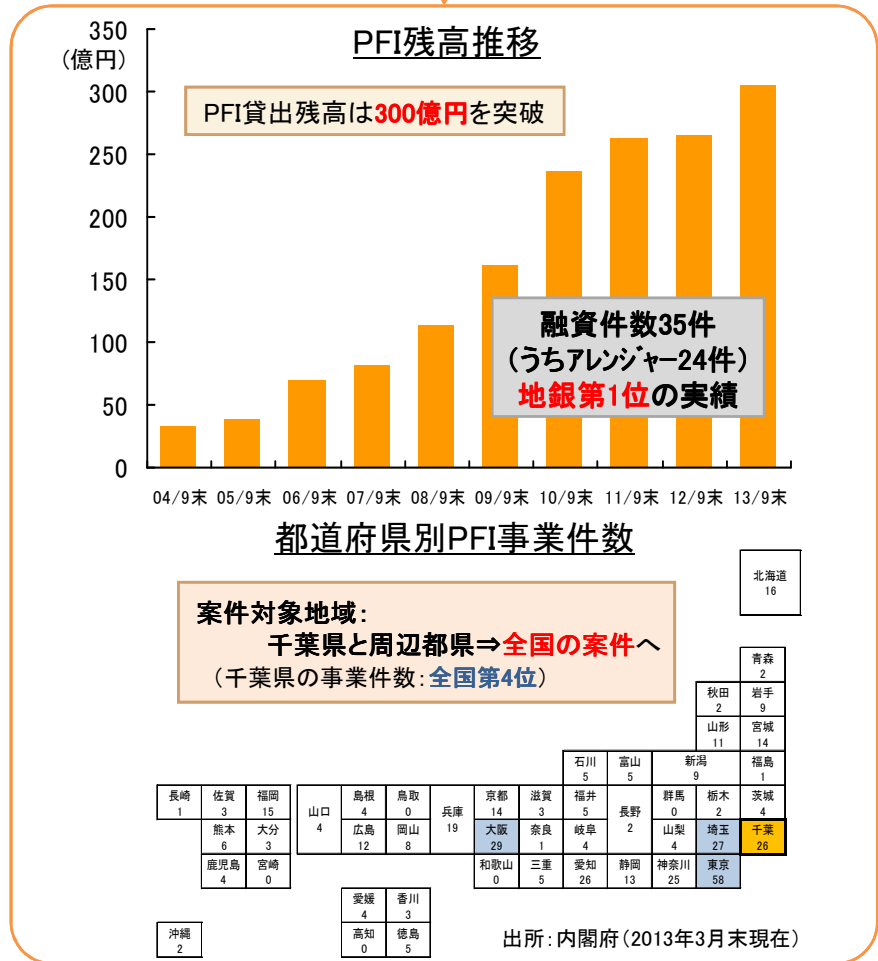
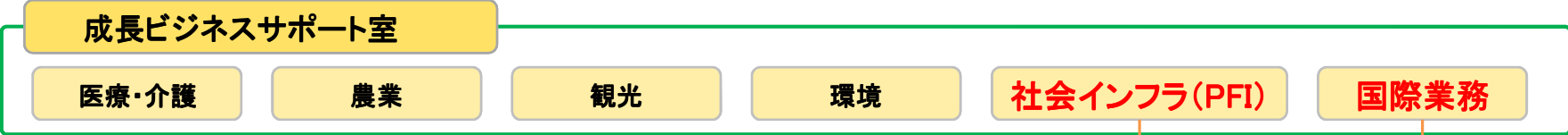
介護施設向け貸出残高推移



地域特性を活かした成長分野に対し、新たなビジネスモデルを創出



PFI案件の更なる取込み、海外店を活用した日系企業向け貸出を強化し残高増加を図る




アプローチチャネルの拡充により、個人顧客との接点拡大を図る

コンサルティング型店舗

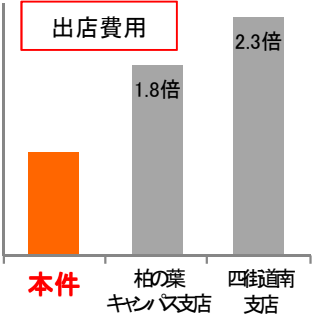
営業時間の延長（平日夕、土日も営業）

ちばぎんひまわりラウンジ津田沼 13年12月

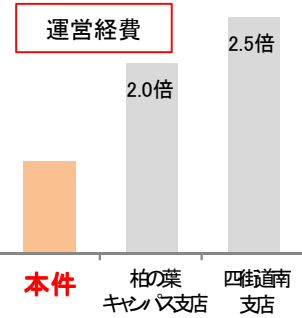
先進的な事務設備
低コスト出店・運営



出店費用



運営経費



コンサルティングプラザ

資産運用・保険相談
プライベートバンキング 他

ローンプラザ


各種ローン相談
申込・契約手続

ダイレクトチャネル

来店不要スキームの構築


インターネットバンキング

スマートフォンアプリ導入 13年7月

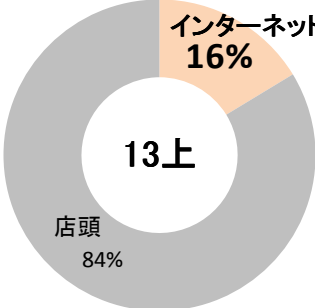


ちばぎんローンダイレクト
(コールセンター)

無担保ローン相談
仮審査申込 12年5月

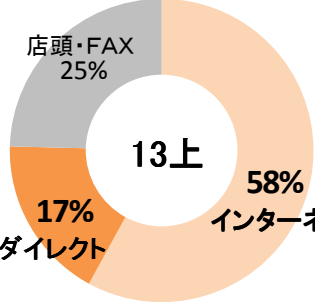


株式投信販売比率



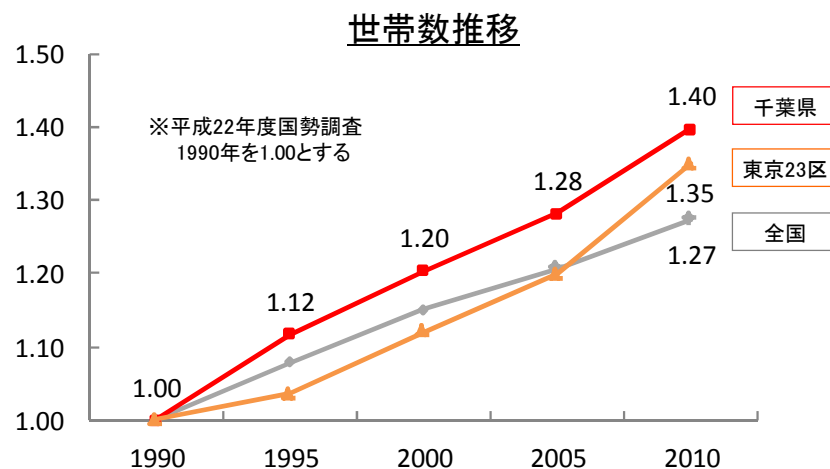
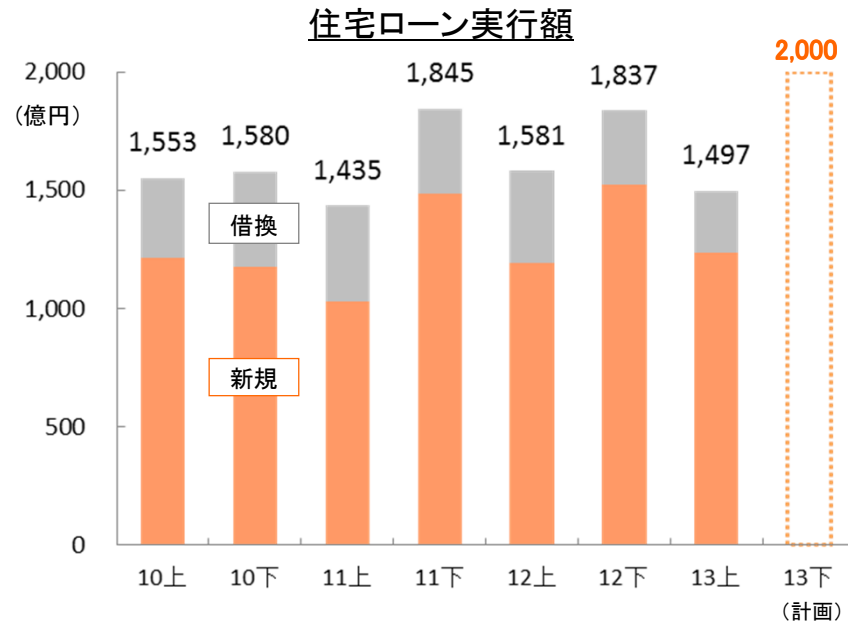
※金額ベース

無担保ローン申込比率



※件数ベース

千葉県での住宅需要は引き続き旺盛、東京23区の場合取込みも強化

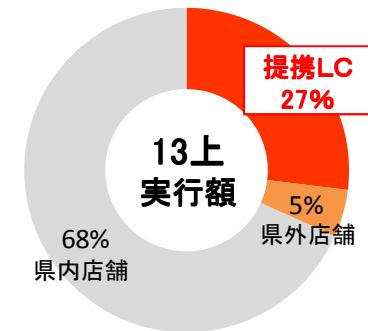


ローンセンター機能の強化

提携ローンセンター

13年2月 設置

- ✓ 大手業者営業
- ✓ 大規模分譲案件に係る審査・実行事務の集中



※金額ベース

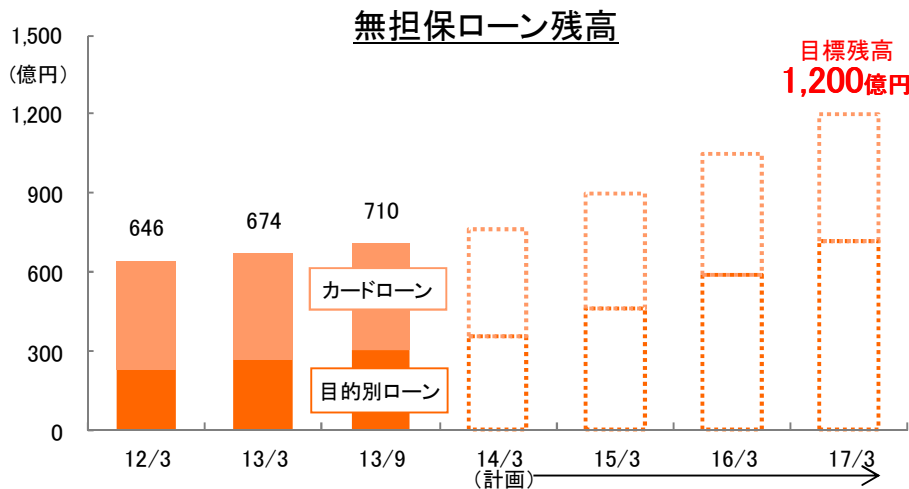
13年10月 ローンセンター・ローンプラザの設置状況



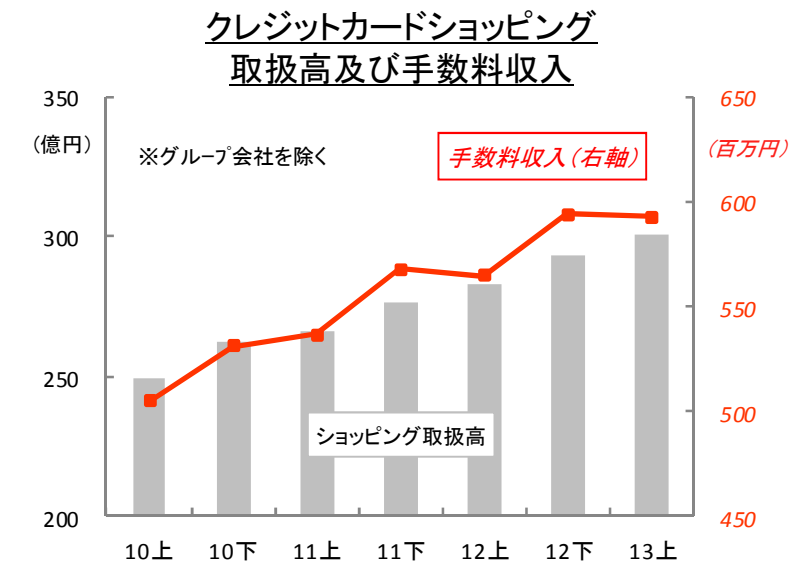
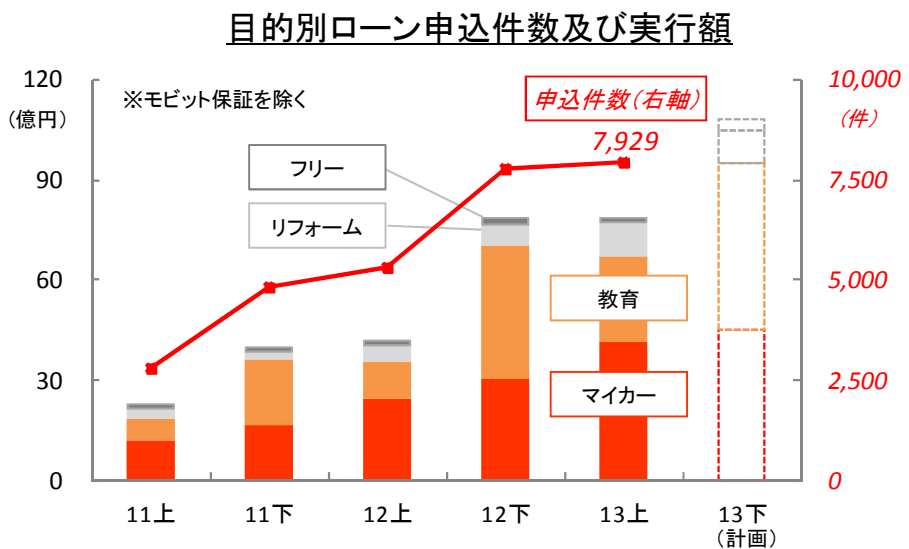
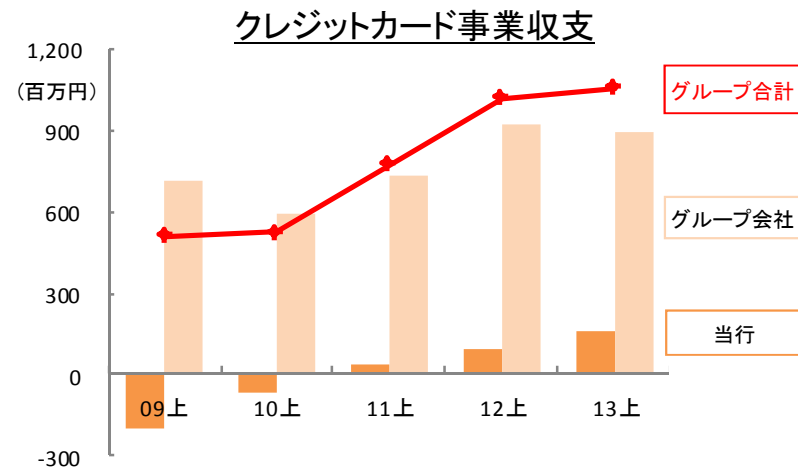
LP: ローンプラザ (店頭営業時間: 平日10-18時、休日10-17時)
 LC: ローンセンター (大手住宅業者による分譲、仲介案件等に対応)

無担保ローン、クレジットカード事業の強化により収益増強

無担保ローン

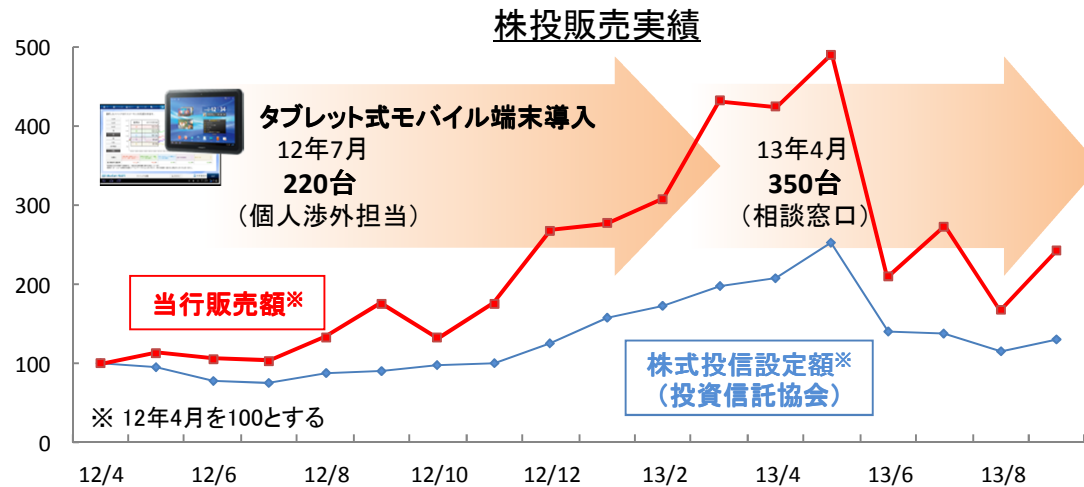


クレジットカード事業

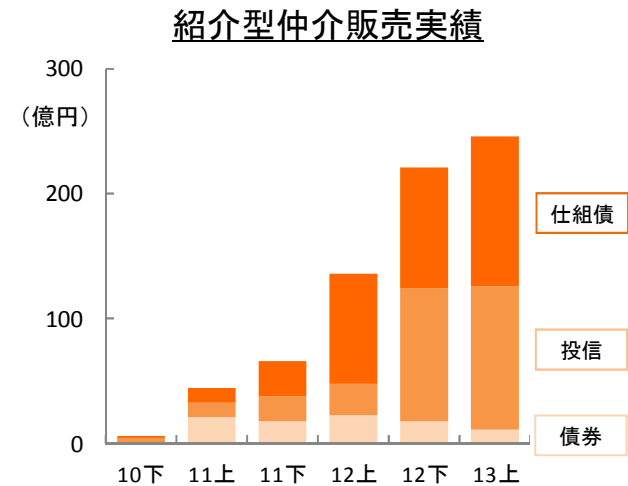


株投の販売は好調、グループ連携を強化し証券業務拡大を図る

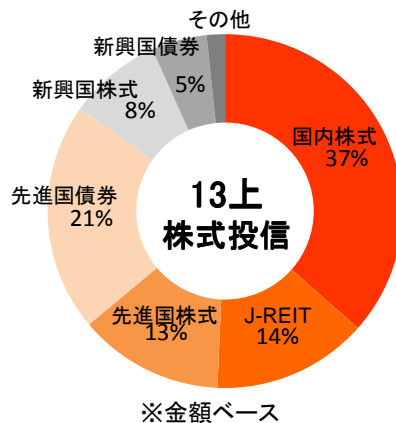
金融商品販売



銀証連携



アセットクラス別販売割合

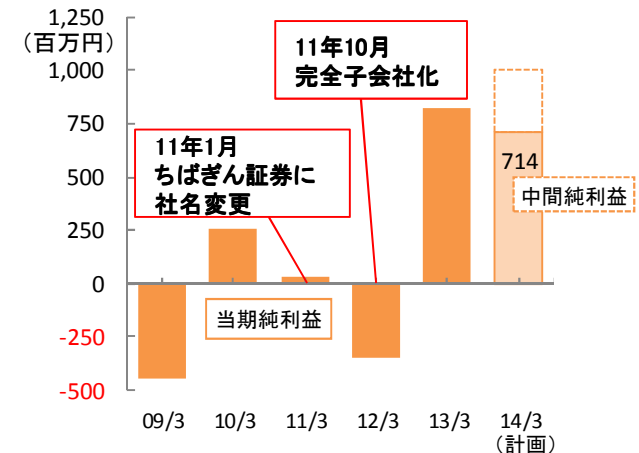


NISA口座獲得状況

口座申込受付合計 約5万件
9月末現在 (ちばぎん証券を含む)

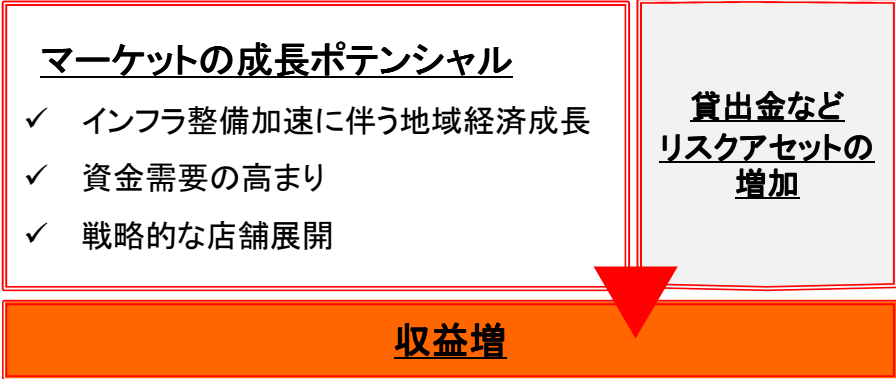


ちばぎん証券の業績

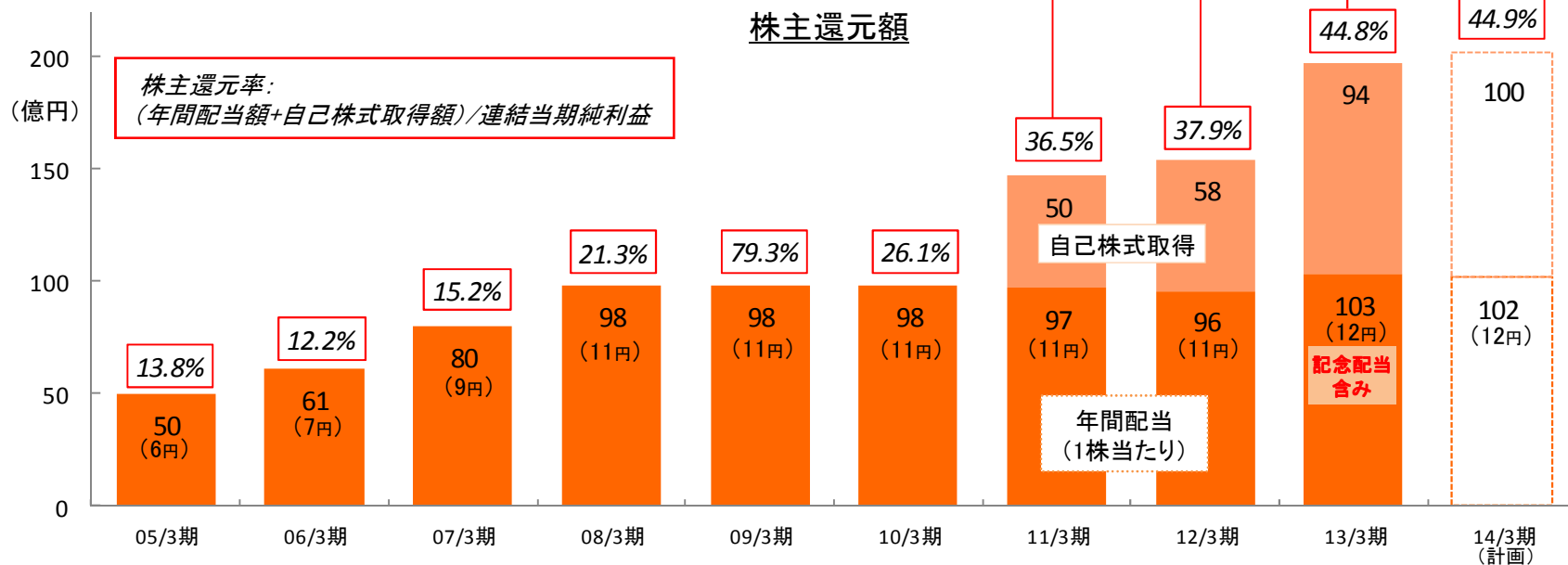
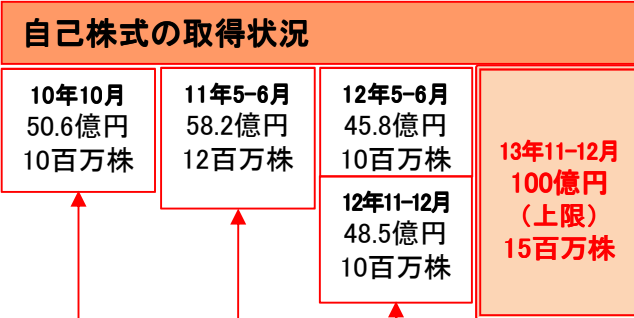


成長に向け資本を有効活用するとともに、柔軟な株主還元を実施

成長に向けた「資本の有効活用」



柔軟な株主還元



株式会社 千葉銀行

〒260-8720 千葉市中央区千葉港1-2

TEL 043-245-1111 (代表)

<http://www.chibabank.co.jp>